

## 第3期千葉県がん対策推進計画たたき台

## (2) 相談・情報提供・患者の生活支援

医療技術の進歩やインターネットの普及、患者の療養生活が多様化する中で、拠点病院等のがん相談支援センターが中心となって、患者とその家族が抱く療養上の疑問のみならず、精神的、心理社会的な悩みについても、対応していくことが求められています。また、がんに関する情報があふれる中で、患者と家族が、その地域において、確実に、必要な情報（治療を受けられる医療機関、がんの症状・治療・費用、民間団体等の活動等）にアクセスできるような環境を整備していくことが求められています。

## ①相談支援の充実

## 〔現状と課題〕

がん診療連携拠点病院では、病院内のがん相談支援センターに、専門的な研修を修了した相談員が配置され、自院の患者だけでなく、他院の患者や、医療機関からの相談に対応しています。

しかし、年々、相談件数は増加していると共に内容は多様化しています。がん相談支援センターの人員が限られている中で、さまざまな患者・家族の相談に応じ、適切な情報を提供できるよう、人材の適切な配置や相談員の資質向上が必要です。

また、平成29年度に県が実施した「千葉県がん対策に関するアンケート調査」によるとがん相談支援センターを「知っている」と答えた患者の割合は●%であり、相談支援を必要とするがん患者が、がん相談支援センターを十分利用するに至っていません。

今後、がん相談支援センターの体制の充実を図ると共に、がん患者やその家族に対するがん相談支援センターのさらなる周知が必要です。また、どこにいても、がん相談により十分な情報が得られ、安心して治療に臨める環境をつくる、相談支援のネットワークの構築が必要です。

社会的な問題としては、がんに対する「偏見」があり、がん治療に伴う外見（アピランス）の変化や診断早期における生殖機能の温存等に関する相談支援体制が構築されていないことが指摘されています。

また、がん患者の自殺は、診断後1年以内が多いという報告があります。拠点病院等であっても相談体制等の十分な対策がなされていない状況にあり、診療に携わる医師や医療従事者を中心としたチームでの対応の必要性も指摘されており、国では今後、効果的な介入のあり方について検討するとしています。

### 第3期千葉県がん対策推進計画たたき台

県では、がんに関する様々な相談をワンストップで対応することを目的とした「地域統括相談支援センター」を千葉県がんセンターに設置しています。

センターでは、相談業務の他、がんに関する療養情報「千葉県がんサポートブック」や「千葉県がん情報 ちばがんナビ」によるがんに関する療養情報や、患者会・患者サロン等の地域の情報の発信、ピア・サポーター養成研修の開催、ピア・サポーターズサロンちばの運営等の業務を行っています。

ピア・サポーターとは、ピア（仲間）とサポーター（支援者）を合わせた言葉で、千葉県がんピア・サポーターは「がん患者等の支援を行うがん経験者」です。がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や、患者同士が体験を共有できる場の存在は重要であり、県では、ピア・サポーター養成研修を開催し、がん体験者の立場からがん患者・家族をサポートできる人材を養成しています。養成した千葉県がんピア・サポーターによる相談会（「ピア・サポーターズサロンちば」）を14病院で開催しています。

ピア・サポーターズサロンちばの開催は、患者の相談の機会の拡充と共に、千葉県がんピア・サポーターが実際の経験を積み重ねること等により、資質の向上にもつながっています。

また、ピア・サポーターフォローアップ研修を開催し、千葉県がんピア・サポーターのさらなる資質の向上を図っています。

千葉県がんピア・サポーターの他にも、患者団体や患者支援団体が患者やその家族の支援の役割を担っています。県内では「がん患者団体連絡協議会」を構成する10の団体を始めとする多くの団体が、病院や地域で患者やその家族の悩みや不安への対応、分かち合いなどのピア・サポートを行っています。また、がん患者団体連絡協議会は県やがん診療連携協議会等と共催し、がん患者とその家族が必要な支援を受けられる社会の実現を目指して「千葉県がん患者大集合」を開催しています。

さらに、がん診療連携拠点病院では、患者・家族同士が自らの悩みや不安を語り合う「患者サロン」が開催されています。がん診療連携拠点病院以外でも患者団体が主催する患者サロンが開催されている地域があります。

しかし、ピア・サポート事業、患者サロン・患者会等に対する認知度や理解はまだ充分とはいえません。県はピア・サポーターの質の確保と、がん診療連携拠点病院等と連携してピア・サポーターの活動方法や活動場所の拡大を検討するとともに、さら

### 第3期千葉県がん対策推進計画たたき台

なる周知に努める必要があります。

（施策の方向性）

#### ○がん相談支援センターの周知と充実

がん診療連携拠点病院は、相談員の資質向上のため、国立がん研究センターが実施する相談員研修の受講を推奨します。

千葉県がん診療連携協議会を中心に、各がん診療連携拠点病院等の相談員間の連携やがん診療連携拠点病院を始めとする県内病院のがんに関わる相談員向け研修会を推進します。

がん診療連携拠点病院は、院内・院外での相談支援センターの周知・理解を図ります。特に院内においては、患者が治療の早期からがん相談支援センターの存在を認識し確実に支援を受けることができるよう、主治医等の医療従事者が、診断早期に患者や家族へがん相談支援センターについて説明することなど、がん相談支援センターの利用を促進させるための方策を検討します。また、院外においては、がん診療連携協議会を通じ病院間の相談支援の連携協力の体制づくりを推進します。

県は、がん相談支援センターの周知を支援します。

#### ○千葉県地域統括相談支援センターの充実

がん医療や療養生活、緩和ケア、介護、福祉、地域との連携、患者会、患者サロン等、多様化する幅広い相談に対応する体制を整えると共に、患者・家族のライフステージに応じた有効な情報をホームページや小冊子等でわかりやすく発信します。

また、がん体験者が他の患者・家族の悩みを聴いたり、自らの体験を語るピア・サポーターの活動を支援します。

#### ○ピア・サポーターの育成・活用

県は、ピア・サポーターを育成し、フォローアップ研修等を通じて、ピア・サポーターの資質の向上に努めます。また、県がんセンターと連携してがん診療連携拠点病院や患者サロン等でのピア・サポーターの活動の場を拡大します。

県及びがん診療連携拠点病院は、患者会・患者サロンの広報をします。

県は、患者会等が行うがん患者支援に資する自主的な活動に協力します。

#### ②情報提供の充実

（現状と課題）

県では、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」を開設し、県内のがんに関する情報を取

### 第3期千葉県がん対策推進計画たたき台

りまとめて発信しています。また、がんと診断されたり、治療を受ける時に役立つ地域の情報を取りまとめた冊子「地域の療養情報 千葉県がんサポートブック」を作成し、様々な悩みを相談できる身近な窓口や医療費・生活費への支援制度等を掲載しています。

しかし、平成29年度に県が実施した「千葉県がん対策に関するアンケート調査」によると、「千葉県がん情報 ちばがんナビ」を知っていると答えた割合は●%であり、今後より一層の周知が必要です。

また、医療技術の進歩やインターネットの普及に伴い、がんに関する様々な情報が溢れ、がんに関する情報の中には、科学的根拠に基づいていない情報が含まれていることがあり、県民が正しい情報を得ることが困難な場合があります。そのため、科学的根拠に基づく情報について、国立がん研究センターのホームページに最新の情報が掲載されていることを周知すると共に、ちばがんナビ等でも情報提供していく必要があります。そして、がん相談支援センターでは、患者等が必要とする情報に辿り着けるよう支援を行う必要があります。

さらに、がんの治療成績の向上に伴い、がん経験者は増加しており、がん治療に伴う外見（アピアランス）の変化や治療等にかかる経済的な問題、がん治療中の食欲低下や体力回復に向けた食生活支援等の、がん患者・経験者のQOL向上に向けた情報提供体制を構築する必要があります。

（施策の方向性）

#### ○「ちばがんナビ」「千葉県がんサポートブック」の周知と充実

県及び千葉県地域統括相談支援センターは、「ちばがんナビ」「千葉県がんサポートブック」について、国、国立がん研究センターがん対策情報センター、医療機関、市町村、患者会等と連携し、情報をさらに充実させ発信します。

県及び千葉県地域統括相談支援センターは、「ちばがんナビ」「千葉県がんサポートブック」のさらなる周知を行います。

#### ○患者の生活を支援する情報の提供

県及びがん診療連携拠点病院は、がん治療に伴う、外見（アピアランス）の変化や治療等にかかる経済的な問題、がん治療中の食欲低下や体力回復に向けた食生活支援等の、がん患者・経験者のQOL向上に向けた情報を、「ちばがんナビ」やがん診療連携拠点病院のホームページ等で発信します。

がん診療連携協議会では、がん相談支援センターが適切な情報を提供できるような支援体制の検討を行います。

## 数値目標

〔個別目標〕

【相談・情報提供・患者の生活支援】

項目	現状
がん相談支援センターの認知度の増加	がん患者等の意識調査結果を記載予定 【参考】知っている・ある程度知っている 51% (平成24年10月～平成25年2月調査)

項目	現状
がん相談支援センターの相談件数の増加	64,557件 (平成27年1月1日～12月31日)

項目	現状
がん相談支援センター利用者の満足度の増加	がん診療連携協議会相談支援専門部会実施のアンケート結果又はがん患者意識調査結果から記載予定

項目	現状
ピア・サポーターの活動の場の拡大	14病院でサロン開催(平成29年度予定)

項目	現状
千葉県がん情報 ちばがんナビの認知度の増加	がん患者等の意識調査結果を記載予定